

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年二月度 入選句（投稿総数二千百五十五句・一般投句数七百十句）

特選

大 前 に 黒 の 正 装 初 鴉

福岡県福岡市 大津 英世

この句の良さは、季語「初鴉」の本意を上手くとらえていることである。普段の鴉は、不吉な者として、あるいは穢れのある者としてとらえられているが、「初鴉」は神の使いとしての崇められるのである。

「大前」は神の御前である。「大前に黒の正装で、読者は「黒の正装で誰がお召しになったか」と想像するが「初鴉であったことよ」と、下五でその正体を明らかにし、なるほどと納得をする。中七の「黒の正装」の措辞が鴉であるがゆえの「黒」である。

俳句は、このように「季語の本意」を上手く表すことで読者を引きつけるのである。

雲 割 つ て 穢 れ を 知 ら ぬ 初 明 り

三重県四日市市 後藤 允孝

「初明り」「初日の出」の句には「皓々」とか「未来輝く」など、一般的には、年を新たにした光りの眩しさを表現することが多い。しかし、「雲割つてくる光りに穢れを知らぬ」と、光りの勢いや純粹で潔白な光りまで表したこの句には、詠者の「初明り」への願いまで受け取れる。雲間の明りは、まさに「穢れを知らぬ」「初明り」なのである。雲を割ってきた勢いのある「初明り」なのである。

大 寒 や 靴 音 硬 く 月 の 径

大垣市 森 茂寿

「大寒や」で寒々とした世界が目の前に浮かんでくる。街中の靴音も硬く、寒々としている。通常で考えても寒いときには、何もかも「硬い」イメージをもたせる。「硬き水」「硬き風」など自然のものまで硬く感じる。「靴音まで硬い音がする」。それにもまして冬の月までも硬さを感じさせる。「月の径」は月に照らされている小道なのである。裏道なのか脇道なのか、人通りもない径なのである。

秀逸

皓々と大地に注ぐ初日の出

養老郡養老町 田中 秀草

大寒の空にはりつく朝の月

不破郡垂井町 中西 弘子

湯豆腐や恙なく過ぐ一日よ

東京都狛江市 椎野 一恵

ひねくれず諦めもせず初鴉

大垣市 吉田 てるみ

葱坊主己がおれがと首伸ばす

大垣市 村田 通夫

よくもまあ似たる母と子初鏡

揖斐郡大野町 藤田 涼子

薄氷を翳せば見えて日本海

大垣市 小林 研

風花や土蔵を走るひびひとつ

大垣市 佐藤 すみ子

恋多き女と言はれしだれ梅

宮城県名取市 松本 裕子

あるがまま生きたき明の春なりし

愛知県豊田市 城山 憲三

入選

寒見舞母亡き里は遠くなり	大垣市	大角 信華
手袋を脱ぎて握手の分厚き手	大垣市	大杉 すみゑ
着ぶくれの誰とわからぬまま会釈	養老郡養老町	田中 紫香
お手玉代わり宙をまうミカンかな	大垣市	野村 みち代
化粧して新年の顔出来上る	大垣市	富井 あや子
初ごよみ覚えはじめのおいうえお	大垣市	平野 ヒサエ
病む人の声悲痛冬の病棟	大垣市	佐久間 美佐子
陽の光寒梅揺らす鳥の声	大垣市	ケセラ・せら
病む夫に七草粥を冷ましをり	大垣市	安田 むつこ
耳遠くも夜半に聞こゆ虎落笛	大垣市	佐久間 敏雄

入選

熱爛にほろと崩れし夫の意地	不破郡垂井町	中嶋 笑子
コーヒーはブラックが良い冬董	揖斐郡大野町	藤田 涼子
自分史をしるす小さき日記買ふ	大垣市	秋山 くに子
雨戸打つ春一番に目覚めかな	京都府宇治市	古根 洋子
風吹けば影もじゃれあうしだれ梅	大垣市	早筈 千恵子
三分咲き香りも三分梅の園	大垣市	早崎 美弥子
針箱に妻の旧姓針供養	兵庫県神戸市	岸下 庄二
走り根にこもる気迫や初詣	安八郡神戸町	高橋 泰
町医者のはときは大きな松飾	安八郡神戸町	高橋 日出美
湯たんぽのほのと母胎の記憶かな	静岡県藤枝市	山本 紫苑

選者吟

ものの芽や古井戸舐返したり	永山
---------------	----